

令和5年（2023）度 第1回 大阪府立西成高等学校 学校運営協議会 議事録

- 【日 時】 6月10日（土）10：00～12：00
【場 所】 大阪府立西成高等学校 多目的室 A
【出席者】 （会長）西田芳正委員（副会長）高見一夫委員 榎井縁委員 田中俊英委員
臣永正廣委員 堂上勝己委員 山下佳織委員 西田吉志委員
【内 容】
1. 開会
 2. 校長挨拶
 3. 委員紹介・事務局紹介
 4. 議事
 - (1) 今年度の重点取り組み事項について
 - (2) 生徒の現状について
 - ①各学年の様子（各学年主任）
 - ②「学校生活と人権アンケート」結果について（人権教育推進室長）
 - (3) その他
 - ①地域連携本部について
 5. 閉会

【事務局からの説明および各委員からの意見等】

(1) 今年度の重点取り組み事項について

○令和5年度学校運営計画について

はじめに

今年度、エンパワメントスクールとしては集大成。次年度からはステップスクールとして、今までの西成高校の良さはそのままに、もう少し生徒は少人数となって手厚く関わられるようになる。今年度の方針の中に既に次年度に向けてのことも入っている。

目指す学校像

- ・学びと支援の新たな結合による「第三の教育」の推進。「学びと支援の新たな結合」とは、社会的セーフティーネットとしての位置づけを持っている本校が「教育」と「福祉」の結合を新次元で実現するための標語である。
- ・本校は常に教育と福祉の連携が求められている。学校現場で向上性を重視する教育的価値観と安定性を重視する福祉的価値観の結合を追い求めてきた。
- ・本校が目指す教育は、高等学校教育の適格者主義（一定の学力で進級・卒業を導いていくこと）ではなく、生徒が高校を卒業することによって幸せになってほしいという思いを込めた学校経営をしていきたい。

学習力をエンパワーする

昨年度から定期考査を廃止した。学力保障というよりは学習保障に力を入れていきたい。「どこまでできたか」よりも「どれだけ学んだか」を大切に、日々の取り組みの中で学ぶということを重視する。ただし「できなくても良い」わけではない。できることもバランスよく追い求めていきたい。

キャリア教育でエンパワーする

- ・生徒が意欲的に職業生活を歩んでいくための意識を持ってもらうために、地域と連携・協働しながらキャリア学習を支援していきたい。（3年生の仕事理解ガイダンスや2年生のインターンシップなど）
- ・1年生から2年生への進級なくして進路保障はありえない。1人でも多くの生徒が卒業できるように様々な支援の工夫をする。例えば昨年からの取り組みであるコミュニケーションウィークでは、生徒と先生が信頼関係を構築できるように対話をして共通理解を得る時間を作っている。

シチズンシップ教育でエンパワーする

本校では2007年より反貧困学習を進めており、生徒が自立して世の中に出ていくためにどのような支援ができるのかを考えてきた。例えば、生徒が自分の家庭状況等をしっかり考えていけるようなプログラムをチャレンジの授業で取り組めていけたらと考えている。

「地域まるごと」エンパワーする

- ・今年から校内に地域連携本部を設置した。新たに地域連携コーディネーターを雇用し、本校の取り組みがどのように地域と繋がるのかを考えている。また、スクールカウンセラーも常駐している。
- ・社会的な排除問題等を学び、肯定感に変えて社会に出ることができるようプログラムとして、次年度から西成学指定科目を設ける。地域に関わる授業を行い、それらを生徒が学ぶことで自尊心を上げ、西成で学ぶことができよかったですと思ってもらいたい。

運営改善で教員力もエンパワーする

先生方がいかに円滑に連携して仕事をするができるかを重視する。学年ごとに分かれていた職員室を1つにしたことで、業務の効率化が図られている。

さいごに

以前は「西成高校に入ってきてよかった」という声(肯定率)が4から5割程度の時代もあったが、現在では9割を超える。それを維持したまま次の学校へと変わっていききたい。

○次年度の募集について

- ・次年度は今年度と同じく総合学科で、モジュール授業は継続する。クラス編成は1学級30人の5学級募集で、合格者は150番名程度だが、実際は6学級展開で進めていきたいと考えている。
- ・入試については5教科テストが3教科テストに変わる。時期は同じ。面接の方法も変わるが、詳細は後日発表がある。本校としてはこの変更をポジティブに受け止め、7月から説明会を5回行う予定である。内容に関しては10月の学校運営協議会で意見をいただきたい。

(1)の質疑・応答

Q1：委員「第三の教育とはどういう意味か。第一、第二は何か。」

山田校長「第一が教育で、第二が福祉である。それらを学校で連携するためには様々な人材が必要であると思っていたが、やっとそこに追いついてきた。我々(教員)も福祉のことについて学び始めて理解してきた。福祉と連携するということの具体的な意味が見えてきたところなので、第三の教育とした。」

Q2：委員「高校として目標を立てる際のタイムスパンに関して、中期的目標について書かれているが、ごだいたい何年周期か。また長期目標はあるのか。」

山田校長「中期的目標は3年ぐらい、長期目標は目指す学校像といわれるものでおよそ5年。スクールミッションに関しては方向性が決まってきたが、次にこの夏までにスクールポリシーを立てることになっている。大学が設定しているアドミッションポリシーの高校版（①どのような生徒を受け入れるか、②どのような教育をするか、③どのような力が付いたら卒業を認めるか等）を考えている。10月の学校運営協議会で話をさせていただく。」

委員「（『学校経営計画及び学校評価』の内容に関して）去年の半ばぐらいからしっかりと委員の方々が共有ができてきているように思う。皆さんがはっきりイメージできるようになった。ここまで目標がはっきりしていくと次世代への引き継ぎがポイントになる。その点を今後議論していくべきだ。」

委員「リーダーが変わると組織が変わるのは仕方がないと思う。ただ組織が持っていた良さをどう維持するか、根幹の部分はどう維持するかが大事になる。そしてそのヒントはコミュニティスクールにあると思っている。」

委員「学生や若い世代に西成のことをもっと知ってもらい、西成の教育に関わってもらいたい。去年から今年にかけて600人ほど西成区の人口が増加した。その中心は20代の若者と外国の方々。若い人々は過去の西成のイメージは持っていない。また、外国の方々は西成が交通の便が良く、外国人に理解があって安くて暮らしやすいという印象を持っており、その結果、人口が増えている。こういった点が西成の特色になりつつあるので、前向きに捉えたい。さらに、地域の会合をネット配信する地域も出てきている。地元の中学生・高校生に関わってもらいながら、地域の人にも繋がれるようにできたらよい。そういったつながり作り・町作りをしていきたい。高校生に対しては有償ボランティア（アルバイト）として関われる仕組みができつつあるので、地域とのつながりをさらに深めてもらいたい」

Q3：委員「（企業への採用時に）もう少しその生徒について知っていれば、配慮ができたのではないかと思うことがあった。」

山田校長「内定をいただいた後に（生徒に関して）お伝えしておかなければ後々困るだろうということは進路保障課から話をするという形をとっている。丁寧な情報共有が大切になってくる。」

委員「そこは課題になる。障がいがあるという事実を伝えないと会社側が合理的配慮もできなくなる。学校と企業間での信頼関係とルール作りがこれからの課題になってくる。その点、卒業生講話と仕事理解ガイダンスは企業と生徒が直接顔を合わせている。これはとても良いことだと思う。企業は生徒の様子を見ることができて、生徒だけでなく先生も企業について知ることができる。そのような関係性を深めていけば、おのずと答えが出るのではないか。」

(2) 生徒の現状について

①各学年の様子

<3年より>

- ・139名在籍でスタートした。
- ・学年目標は「職業的自立～やりきる」
- ・最終学年として進路活動に重きを置いていきたい。昨年度3月に面接テスト、5月に仕事理解ガイダンスとコロナ禍であったにもかかわらず、進路活動に取り組むことができた。
- ・第3学年は、このような節目では頑張ることができる生徒が多い。
- ・不登校の生徒が各クラス1～2名程度。今年度に入って欠席日数が30日超えている生徒もいるので、コミュニケーションウィークや家庭訪問を利用して支援していきたい。
- ・中学校から不登校の生徒が多く、コロナの影響もあり学校に登校する習慣がない生徒も多い。
- ・生活環境も多種多様である。一人で食事をしている生徒もいれば、家族の分の食事を作っている生徒もいる。その中でこの1年間で主体性を持って将来に向けた自分の人生設計ができるようになってほしい。

<2年より>

- ・学年目標は「いま、頑張る！」1年は入学式後、新生活でとまどいから相手のことを考えられずトラブルになることが多かったため学年目標は「思いやり」であった。
- ・昨年を振り返って、本学年は欠席・遅刻が多い印象。
- ・3年生はメリハリのある学年とのことだったが2年生はそのあたりが心配である。今週にインターンシップが実施されたが、インターンシップ先にたどり着くことができなかった生徒もいた。3日間通して遅刻欠席0という生徒がもう少しいてほしかった。
- ・欠時数が15日超過すると欠時オーバーとなるが、1年次に多少欠席遅刻しても進級できたことが気のゆるみになっているのではないかと思う。そういう意味でも「いま、頑張る！」という目標はふさわしく、要所で提示している。
- ・入学当初200人在籍でスタートしたが、2年165人となっている。35名が転学・退学となった。学校中期的目標に進級率9割とあるが、2年生は17%ほどが西成高校から離れていくことになった。中には中学校不登校でも毎日登校している生徒もいるが、集団生活に馴染めなかった生徒が多い印象である。
- ・来年度の就職活動に向けてここぞというときに頑張ってもらいたい。

<1年より>

- ・今年の1年に関しては、定員が割れず213名でスタートできた。1クラス36名ないし37名在籍で教室がいっぱい感じている。
 - ・4月当初から5月にかけては気を張って登校してくれていたが、6月に入って各クラス5、6名欠席がある状況である。1年生はまず学校に来てもらうということが一番大切。学校に来るモチベーションを各クラス単位や学年全体で工夫していく必要がある。
 - 夏休みに生徒たちが楽しいと思えるようなイベントを企画したい。内容は未定だが、地域の方々とも連携していきたい。
 - ・学校中期目標の9割をベースにできるだけ多くの生徒の進級を目指したい。
- 学年目標「笑顔いっぱい的一年間にしよう」

②人権アンケートについて

<人権教育推進室より>

アンケート実施当日は欠席者等が多くいたが、データ数は回復している。「府」と表記のあるは府立人研における集計結果である。共通項目についてはデータを比較している。年ごとのアンケート結果を比較することでその学年の特徴などがわかる。

○アンケート結果、分析

- ・生徒が住んでいる場所は住吉区が減って、大正区が増えている。
- ・自分のことを家の人理解してくれていると思う生徒が非常に多い結果となった。特に1年生。
- ・一緒にいるときに最も安心することができる相手として、「いない」「友達」が多い大阪府と比べると「家族」を答える生徒が少ない。
- ・悩み事があるときに相談する相手が「いない」と答える生徒が3年になると減っていつている。3年間西成高校の生活の中で見つかっている。
- ・困ったときに、保護者、学校以外に相談したことのある場所として、子ども家庭センターなどがあがるのも本校の特有。2年生に「相談していない」が多い。
- ・学年が進むにつれて、アルバイトをしている生徒の数は増えている。アルバイト代の使い道は基本的には生活費、食費が多いが、今年の2年生は将来に向けて貯金している生徒が多い。
- ・1日に1食という生徒が一定数いるのが西成高校の特徴である
- ・夕食を「家族と食べている」という生徒が1年生は8割を超えている。家族が自分のことを理解してくれていると思う生徒の割合が高いことに影響か？
- ・家の経済状況はについて「わからない」と答える生徒が減っている
- ・スマホを一日4時間以上使っている生徒が7割を超えている。
- ・家で家事などをする生徒は1年生の5割、2・3年生の4割。
- ・1年生で12時までに寝る生徒が昨年に比べて増えた。アルバイトが始まると遅くなるのかもしれない。2時以降に寝る生徒にとっては朝の始業時間が遅くなったことで睡眠時間の確保につながっていればよい。
- ・となりカフェの利用率は2年生が高い。
- ・不安に思うことは電車の路線図、乗り方に不安を感じる生徒が1年2年4割いる。
- ・学力についてバカにされた経験がある生徒が多い。「勉強ができないのは本当のことだと思った」と感じたとの声も。
- ・嫌だった言葉に「不登校」という回答もあった。
- ・高校での学習は将来につながると思う生徒は学年が進むにつれて減っている。3年生だけを昨年と比較すると「そう思う」という生徒が増えている。
- ・不登校を経験している生徒が1年生は4割を超えている。不登校を経験している生徒が進級する割合が低い。
- ・西成高校生であることで嫌なことを言われた経験がある生徒は学年が進むにつれて増えている。西成学習の必要性がある。

(3) その他

①地域連携本部について

- ・来年から行うステップスクールの先行実施として、地域連携本部を学校内に置いている。
- ・地域と学校で協働し活動していくことにより、生徒への支援を充実させていくことが地域連携本部の大きな役割と目的になっている。
- ・「隣保館ゆ〜とあい」と「A「ワーク創造館」から地域連携コーディネーターとして参画していただき、地域と連携した活動や取組みをコーディネートしていただく。

- ・さらに SC や SSW などの専門人材を配置し、中学校・企業・NPO・行政の多数多様な地域資源を効果的に活用して、西成高校がこれまで培ってきた教育活動や生徒支援の更なる充実と発展をめざす。
- ・資料には地域連携本部としてどのような取り組みを行うのかについて、内容と連携先を記載している。今年度は模索しながらではあるが運営を進めていき、年度末の振り返りを通して、来年度の地域連携本部の運営に繋げたい。その為にも、まずは行動してみるという姿勢を大切にしたい。

②地域でのイベントの意見

- ・地域をイベントで盛り上げる準備段階を今年から始めてみたらどうか。
- ・例えば、オーソドックスに文化祭を利用しての地域交流はどうか。ステージのバンド活動なども有効なのではないか。
- ・例えば、京都大学文化祭に左京区の人が遊びに行くように西成区には象徴的な西成高校があり、ポジティブな印象も上がって来ているので、プレステップスクールとして、実行委員会などを作って、区長の意見などを取り入れながら、子ども達を招待してはどうか？来年からではなく、2、3時間でもいいので、始めてみてはどうだろうか。
- ・エンパワメントスクールが2、3校から始まり、発展した経緯を踏まえ、西成高校は、ステップスクールの代表的な1校として、地域を巻き込んだイベントや取り組みを行い、それを高校生がイベントをすることで自信を持ち、イベント対象者の小学生も西成区住民としてポジティブな意識を持ってもらうということを西成高校が中心になって提案していくのはすごく意味がある。非常に始めやすい、良いコンテンツ。

(地域でのイベントの回答)

- ・中学生にはオープンにしており、来て頂く体制はとっている。
- ・今年度は50周年記念式典があるので、難しい。
- ・土曜日に、学校の敷地で文化祭をして、個々のクラスの取組発表を行い、集団での“太鼓”や“よさこい”などの大きな取り組みをメインとする。
- ・日曜日は、国際交流センターで式典と生徒の発表と合わせて行うことを考えてる。
- ・(西成高校を)開いて行く部分については、よいと思う。どのような形がいいのかは、また相談させてもらいながら進めたい。
- ・昔は、町内会が公園でお祭りを昼間にやっており、生徒と一緒に教員も参加したこともあった。現在は色々な縛りがあるので、難しいが、そういうものの一つとして、西成高校もなにか取り組みたらよいと思う。

(地域事業について)

- ・上記の(地域振興)に併せて、11/4、5で“0”ラウンドと言うイベントを行う。
- ・西成は、元々全国シェアの7割の婦人靴を作っていた靴の産地だったが、現在は安い輸入靴に押されている。
- ・地場産業を調べていく中で、分かったことは、世代交代が進んでいること。
- ・今までは、OEM生産の下請け仕事を行っていたのが厳しい現状になっている。
- ・それとは違った動きが若い世代が始めおり、自社販売とか、新しい商品、自社ブランドを開発する。などの動きが始まっており、既にMakuake(クラウドファンディングサービス的一种)でも成功している事例も出てきている。
- ・こういう若い世代の経営者が出てきていること、それを支える連携ができていることに気がついた。
- ・なにわ地域は、他卸や資材屋・革・部品を作る企業が多いので、卸組合とメーカー組合に声をか

け、NSC(西成製靴塾)の大山一哲さんを実行委員長として、11/4、5に革製品に関するイベントを実施予定。経済産業省の補助金も頂いた。

- ・このイベントにはスニーカー系のブランドも出てきていて、インフルエンサーや南海電車など、情報を拡散してくれる方々と連携を取ろうとしている。
- ・なにわ地域ではイタリアの世界的な革製品メーカーの下請けをずっと担ってきた歴史もあり、世界一の技術があると思っている。ただ、ブランディングが少し忙しく、サービスがややこしい。50年、100年後はわからないが、西成区からこういうブランディングができる技術があればよい。

以上